

【社会科教育法Ⅲ】 第5回課題の解答(第11講用)

問2

○多様な教材選定…田中 友紀乃

律令国家・唐」の魅力は、教師が授業に関する資料の準備をしている点だと感じた。

授業の最初の方では、2つの地図を使用して唐の領域などを教えている。また、小さな黒板では唐の国家の基本構造を図にしたものや、人口の折れ線グラフが書かれており、それぞれについて説明するときや、生徒に質問するときにも用いていた。

他にも歴史を専門に研究している先生の意見、予想を使用して新たな疑問を抱かせ解決に向かわせていた。生徒たちはそれらを用いた授業を受けることにより、客観的に考えることができたのではないかと感じた。

○教材活用と事例比較…安永 早紀

前回の復習と本時につながる部分として、小黒板に生徒が唐の律令制の仕組みを理解しやすいように、唐（長安）の繁栄を支える3本の柱に均田制・租庸調制・府兵制、土台に公地公民制というように律令制を建物に見立てて図で示した。この図により、律令制が成り立つうえで3本の柱が重要な役割果たしていることを生徒に導入部分で示し、本時の内容に生徒が入りやすくしている。

「均田農民の明暗」として、長安から遠く離れた農村部の裕福な家族と貧しい家族の戸籍を取り上げ、生徒たちに戸籍を比較させることによって、均田制がうまく機能していなかったことを気付かせる。比較後貧しい家族を主に取り上げることで、3本の柱が崩壊していた背景を分かりやすく生徒に伝えることができる。

○教材活用と仮説検証…横山 遥

歴史の授業でありながら、地図や統計など様々な資料を活用し地理的にも考察している。世界地図のみかた（大陸の緑と茶色の部分）を授業の導入部で説明し、展開部でその知識を再度生徒に確認させ考えさせている。ほかにも人口推移グラフを描かせ、視覚的に変化をとらえ生徒に変化の要因を自由に考察させるなどしていた。

また、公地公民制を中心に当時の生活のあり方や2つの家族を比較したときにわかる政治の歪みをとらえるなど、公民的にも考察していた。

授業の進め方としては、生徒の予想を基軸に授業が展開されていた。人口推移の動きの原因や、2つの家族の人数の変化を自由に予想させ、それを裏付けるために資料を利用し結論を出していた。

○教材活用と公地公民制の衰退…後藤 麻菜美

技能面では、人口統計や戸籍簿など統計資料を使用し当時の農民たちの状況や心情に触れている。知識・思考面では公地公民制がなぜ崩れていったのか、また国家による農村の把握ができなくなった背景を、順を追って詳細に説明している。このように2つの側面からア

アプローチしている。

唐の盛衰を、政治軍事的・財政的・社会的要因からとらえており子どもたちにわかるように詳細を説明している。データ豊富で、考える作業など全体を通じてのバランスがいい。先生の進め方がものすごく丁寧でわかりやすい。

○仮説検証と唐の衰退要因…花房 瞳

「律令国家・唐」の授業は、子どもたちの予想・仮説から成り立っている。唐の社会変動について、子どもたちが分析できるように史料を提示している。この授業では、教師がたびたび「予想してみましょう」と発言し、子どもたちが授業を受けるにあたって、受け身にならないように工夫している。

また、この授業では MQ である「唐の人口減少の原因」を最初に提示して、明らかにするために 3 つの要因（政治軍事的要因・財政的要因・社会的要因）を解釈して唐の衰退について教えている。唐の盛衰の事実を把握するだけでなく、原因・結果の結びつきを教授している。

○最終的に形成される歴史認識…勝田 瑠理

「律令国家・唐」の社会科授業としての魅力は、生徒の持っている知識が必ず正しいわけではないということに気付かせた点である。この授業は庶民の生活という視点から律令制度を知り、教材は人口統計表や戸籍を取り入れたプリントである。MQ の「なぜ、8C 半ばより唐の人口は減少・停滞していったのか」であるが、資料を読み進めていくうちに戸籍調査が不十分で、人口が減少したわけではないことに気づく。生徒は人口の減少を事実だと思っていたため、資料そのものが間違いであったことに驚く。

このことから、生徒は社会を多面的に見ることの必要性を知り、情報が本当に正しいかという新しい視点を設けることができるのだと考える。